

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名 グループホーム くらら門田屋敷

日付 平成17年12月15日  
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年、家族の会副代表

評価調査員 介護事業経験1年、家族の会相談員3年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

## 外部評価の結果

### 講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

グループホームを開設してもう少しで丸8年ということもあって、長くここに住み続けている利用者は少しずつ介護が大変になってきている。他のグループホームではあまり見られない程介護に時間とエネルギーが必要な状況の中、職員は本人の残っている力を出来る限り発揮させようと努力している様子が良く伺われた。

意思表示がかなり少なくなっている利用者に対して、しっかりとコミュニケーションを図ろうとしている場面がよく見られた。ほんのちょっとした表情の変化をうまく捉えて、本人の意志を読み取ったり、本人をその気にさせる誘いが実にうまい。心の中で拍手をしてしまった。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

利用者の心身の状況が今後ますます重度化していき、職員の負担がより増してくる事も予想して、職員の数を増やしたり、職員間の親睦会を考える等対策はとっているという事だが、「ケアの中での喜び」をもう少し何らかの方法で確認し合ったり、形にして共有し財産としていかれてはどうか。

都市部では地域社会との繋がりがなかなか困難という所もよく聞くが、このホームではボランティアの活躍の実績を持ち、近くの学校のPTAのお母さん方の清掃奉仕や民生委員からの声掛けもあるので、このホームからもっと積極的に働きかけを続けてみて下さい。ここのケアの有り方を知って貰う事は、地域の人達にも有意義な事と思います。

ホーム側から家族への働きかけは十分出来ていると思う。次の段階として、家族側がホームに関わるチャンスを少しずつ増やし、「共により良いホームに育てる」雰囲気を作って行って下さい。

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	介護度が高くなりつつある現在、出来る限りおむつ使用ではなくトイレへ、とか時間がかかっても眠剤をやめて活力を復活させるなど、また、歌の好きな人には週1回先生のピアノに合わせてハミングを楽しんで貰う等、一人ひとりの力を維持し尊重する暮らしをしている。 また、プライバシーの保護への配慮は会社の方針としても厳しく守られている。各居室に広いトイレ洗面所など完備していて、「第二の自宅」となっている。		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か、		
	ケアサービスの質の向上に関しても、問題が発生した時も、それぞれに対してマニュアルが準備されているので安心である反面、それを読みこなし使いこなしていくのも大変と思ったが、スタッフの間の話し合いの結果進められている事も多い、ミーティングや日常的な申し送りが確実に行われているので、このことが良いケアにつながっているのだろう。 本人や家族のケアプラン作成や見直しへの参加を少しずつ具体的にしていこう、利用者側の意志や希望の反映がより良いケアを実現していこう。		

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	「小規模グループホームならではの一人ひとりの身体の状況に合わせた手厚いケア」、そして「食事の支度や掃除、趣味やレクリエーション等、スタッフと共に楽しみ生きがいを感じて貰う暮らし」を目指し、実現している。 昨年出来ていた事が今年は難しいと言った状況が次々と起きている現状の中、スタッフはほんの些細な出来事を大きな喜びとして捉え、共有し、粘り強いケアを続けている。ターミナルケアも経験済みと言うことであるが、医療面の問題や家族との関係も考慮しながら無理のない範囲で今後も進めて欲しい。		

### 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	介護度も低く活動的な利用者が多かった開設当時と違って、重度化している現在、このゆったりと広い空間やリビングから見通せない居室棟は、職員にとって厳しいものがあるかも知れない。しかし、そこは職員の智恵や工夫、そして頑張りでクリアしている。リビングにはいくつかの横になれる長椅子や簡易ベッドが置かれており、車椅子の人もすくすく休むことが出来る。 さんが絵を描くコーナー、さんがビデオに合わせて歌う定位置もあり、利用者が「私の居場所」を持ちながら日中を穏やかに過ごしている。 色々な事情は理解できるが、自分で歩ける人が自由に一人で外回りの空間を楽しめないのはとても残念だ。		

### ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		